

2019年3月23日(土) 海山FC(紀北町海山区) エレキボート
大潮(旧2/17) 満潮07:08(167cm) 干潮13:18(18cm) 満潮19:35(168cm) : 尾鷲
キス 23cm~20cm 3尾 18・19cm 2尾 15cm~ピンギス 23尾 計28尾 リリース3
メゴチ 1尾 リリース3尾

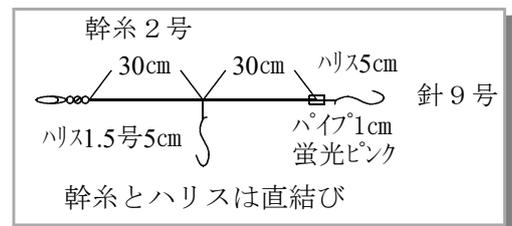
5時20分 現地着	13時18分 干潮(18cm尾鷲港)
6時30分 出船	14時00分 納竿
7時08分 満潮(167cm:尾鷲港)	14時30分 現地出発

【海山FC】 海山フィッシングセンター TEL 0597-39-0474

【料金】 エレキボート ¥6,000

【エサ】 前日に、フィッシング遊 石ゴカイ 1杯 (¥476 外税) ¥514(税込み)
エサは少し余ったのでちょうどよい量であった。

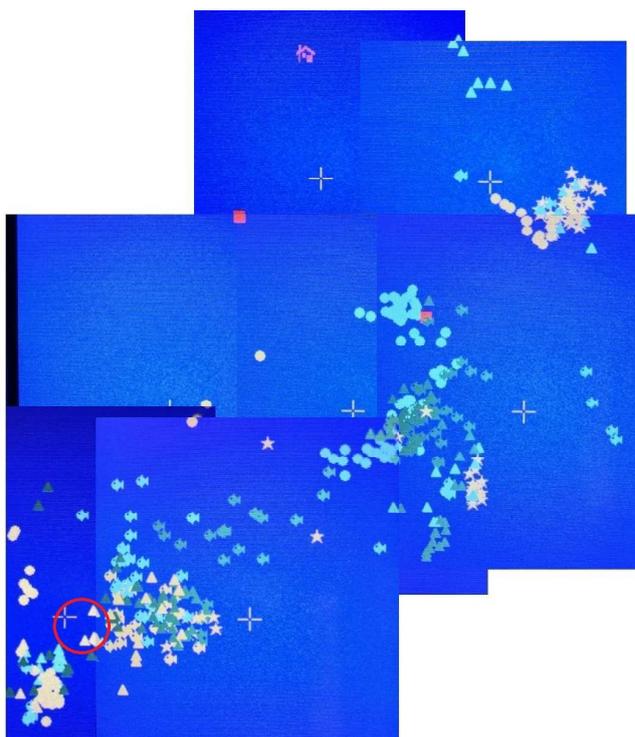
【仕掛け】 キス 自作仕掛け2本鉤 おもり12号・20号
のませ釣り:準備はしてあったが実施せず
操船、手持ちでの釣り、置き竿と一度に3つは
難しい。操船するなら、手持ちでの釣りだけがよ
い。従って、次回からは、のませ釣りの準備をしな
い。



【様子】

- 曇り時々晴れ。初め、風が強く白波が立っていた。10時頃収まっていったが、強く吹いたり弱くなったりと安定しなかった。風が強いときはおもりを20号、弱いときは12号で釣った。
- 初めの1時間は当たりがなかった。今日はダメかと思った。潮止まりが影響しているのかと思ったが、13時頃の潮止まりでも当たりがあったし、以前も潮止まり関係なく当たりがあったことから、潮止まりが影響しているのではないのだろう。日が昇る時間(明るさや水温)が影響しているのかとも考えたが、この季節で1時間の違いで水温がそれほど変化するとは思えない。今日は釣れる場所が狭かったことから、スタートしてから1時間でキスのいる場所を絞りきれなかったと言うことかな。
- それにしても強風だ。ボートが速く流されるため釣りにならない。おもりを20号に変えた。置き竿をあきらめた。
- 湾口から2つ目、1つ目のポイントを探った。1時間後にやっと1尾釣れた。この調子だと今日はダメだなと思った。
- 湾口から2つ目のポイントを繰り返し流した。ポツリポツリと当たるようになった。
- 風が収まってきた。当たりが遠のいた。風が収まったら当たりが遠のいたとは、どういうことか…。
- 前半(午前10時まで)は、13尾だった。この調子だと20尾釣れれば良い方か…。
- 「釣れないところで釣っていても釣れない」と思い、最初に良型が釣れたところを探ることにした。
- また、釣れるようになった。良型も釣れた。
- 白いブイとピンク色の壁の家との位置関係から、同じ場所を流した。ポツリポツリと釣れてくる。
- 風向きが変わったようで、白いブイとピンク色の壁の家との位置関係だけではポイントに入らない。魚探の航跡からポイントを見極め、風の向きに合わせて、釣り始める場所を決めて釣った。また、釣れるようになった。

○魚探の航跡から、後半のポイントは図の赤丸となる。赤丸の左下が湾口から1つ目ポイント、赤丸の右側が2つ目のポイントである。



※キスのポイントの図(魚探画面)

上部にある家の形(薄紫色)が海山FCの事務所。その左下の赤い四角がフィッシングつむら事務所。その間の距離が約200mである。フィッシングつむら事務所から右下の赤い四角はオレンジ色のブイ。今回、撤去されていたようではなかった。

左下の赤丸が後半のポイント。赤丸の左下が湾口から1つ目のポイントで、赤丸の右側が2つ目のポイントである。

○午後2時に近づいてきたので、事務所に帰りながら、他のポイントを探った。キス1尾、メゴチ1尾を追加した。

○前半13尾、後半15尾。ピンギスがたくさん混じったが、良型が5尾も釣れた。リリースを含めキス・メゴチで35尾、楽しい一日となった。

○ピンギスはもっとリリースしても良かった。毎度の反省である。初めに釣れないと、どうしてもキープしてしまう。また、釣を外したときに死んでしまうとピンギスでもキープするので、一度キープしてしまうと、それ以降はキープする傾向になってしまう。リリースサイズの見本となるものが必要な。

【ボートでのキスの釣り方 (流し釣り)】

(1) 風または潮の影響でボートの移動速度がちょうど良いとき

仕掛けを落としたとき、仕掛けが、舟底ではなく、沖に流れていくように座る。

① 仕掛けを真下に落とす。

② おもりが着底したら、竿先を立てて、その後、リールのベールを起こす。

③ ボートの移動が遅いときは糸ふけをとる。速いときは、自然と糸ふけがなくなる。

④ ボートの移動に合わせておもりが底を引きずらないように竿先を下げていく。

⑤ 竿先を下げていく途中で、竿先を1~2回軽くあおって誘いをかける。

‘ちょん’と1回あおる。または、‘ちょんちょん’と2回あおる。

さそいをかけた後に当たりがある。

⑥ 竿先が水面に向いたら、リールのベールを倒し、竿先を立てながら道糸を出す。竿先が立ったらリールのベールを起こす。

⑦ ③~⑥を繰り返す。

⑧ 誘いの回数は、キスの活性による。活性が高いときは頻繁にかける。低いときは、誘いを掛けず

ぎない

(2) 風または潮の影響でボートの移動速度が速すぎるとき

おもりがすぐに底をひきずってしまったり、おもりが底から浮いてしまう場合

上記のやり方で、おもりが着底したら、「そのまま1～2m道糸を出し、その後、竿を立ててリールのベールを起こす。」、竿先が水面に向いたら、「リールのベールを倒して竿を1～2回振り、道糸を1～2mくらい出してから、竿先を立ててベールを起こす」など、おもりが同じ場所に留まるようにする。おもりが底を引きずる時が誘いとなる。

(3) 風も潮も止まりボートが移動しなくなったとき

投げて釣る。時々、さびく。さびく頻度はキスの活性による。

【当たりがあったとき】

○竿先を送り込む(引っ張るのではなく、反対に、竿先を道糸の先の方へ出す)。特に、ついばんでいるような小さな当たりの時は、送った方がよい。

○とにかく合わせない。よく食い込むまで待つ。即合わせは絶対にダメ。送り込むことによって、即合わせを避けることになり、よく食い込むまでの時間を作ることになる。

【誘いの頻度】

○誘わないと当たらない。誘いすぎても当たらない。誘いすぎない。

○キスの活性により誘いの頻度を変える。

○置き竿の方がよく釣れるときがある。これは誘わない方がよいということ。